

鳥取大学地方創生プロジェクトについて

1 プロジェクトについて

地方創生プロジェクトは、地域の課題解決に貢献する体験型の学習プログラムです。鳥取大学と連携協定を結んでいる自治体の地方創生事業の中でも特に若い世代に関わりあるテーマを中心に、学生が自治体の抱えている課題に対する理解を深め、課題解決の方途を探ります。

受講生たちは事前学習をした上で、自治体の現場に赴き、現地調査、聴き取り調査、関連情報やデータの収集、地域住民との意見交換などを行います。そして、地方創生に向けた課題を読み解き、課題解決に貢献しうるプロジェクトを企画・提案します。

2 提出した地域課題

「青谷地域内の廃工場跡地についての地域振興施策の検討について」

平成25年に破産した当該施設は、破産手続きにより競売にかけられたものの買い手がつかないまま、平成27年に破産手続き終了し、事実上所有者不在の状態となっている。放置期間が長期になり、地域では建物の破片等が近隣の事業者に飛び散るなどの被害が出ている他、敷地内の不法侵入など治安悪化も懸念されている。

このため地域で跡地を有効活用し、雇用やにぎわい創出に繋げていく為の地域振興施策について研究する。

3 成果(プロジェクト提案)

「和紙でつなぐ！工場跡地賑わい創出プロジェクト」鳥取大学工学部2年 2名

4 成果発表会・選考会

■日時:2月5日(木)15:30~17:40

■場所:鳥取大学広報センター2F(スペースF)

■対象:学生,自治体職員,教職員,一般の方

■参加方法:会場参加・オンライン参加併用

■参加費:無料(交流・懇親パーティー費は別途)

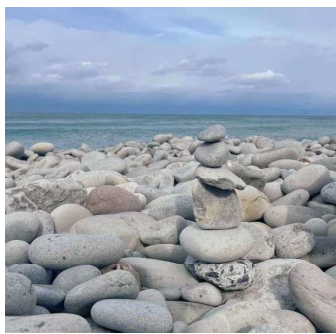
※本プロジェクト提案がグランプリを受賞いたしました。



地方創生 プロジェクト のご紹介

鳥取大学工学部
社会システム土木系学科

宮本善和



Contents

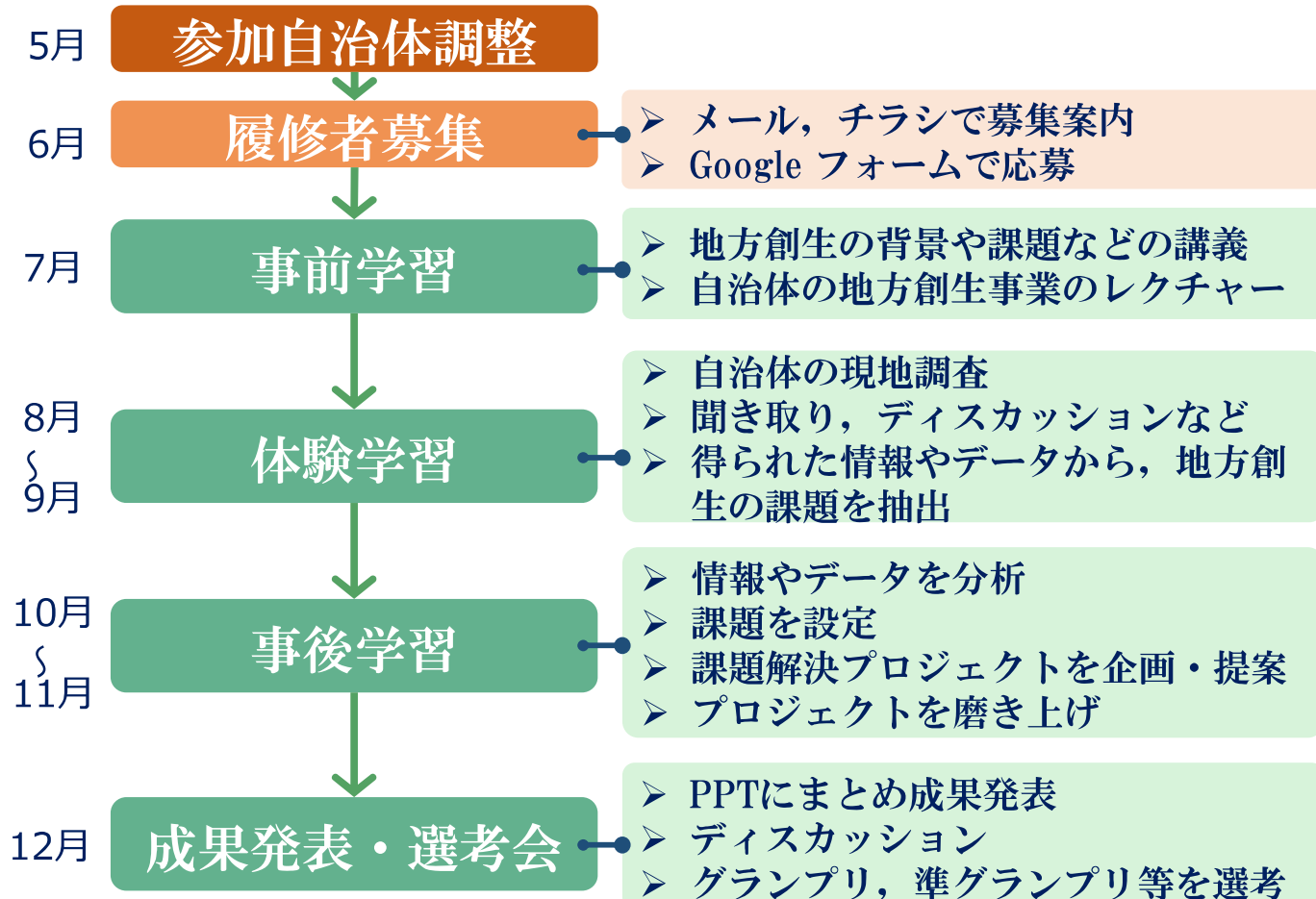
1. 目的と概要
2. 地方創生プロジェクトの流れ
3. 2023年度のプロジェクト事例の紹介

1. 目的と概要

- ◆ 地方創生プロジェクトは、地域の課題解決に貢献する体験型の学習プログラムです
- ◆ 鳥取県内の各自治体の地方創生事業において、地域の課題への理解を深め、課題解決の方途を探っていきます
- ◆ 事前学習の上で、地域を訪問し、現地調査、聞き取り調査、情報やデータの収集、住民との意見交換を実施し、地方創生に向けた課題を読み解いていきます
- ◆ そして、課題解決に貢献するプロジェクトを企画・提案します



2. 地方創生プロジェクトの流れ



体験学習（各自治体）

地方創生事業の現場で調査をします



↑ 現場見学、住民への聞き取り

← 担当職員へのヒアリング

成果発表会 →



成果発表・選考会

講座の若手の先生などに発表し、ディスカッション



↖ ↑ 成果発表

投票 ↗

ディスカッション →

← 表彰



鳥取森田（株）跡地の課題について

《鳥取森田（株）を巡るこれまでの経緯》

- ・昭和42年、大阪市にある森田洋晒（株）の分工場的な企業として鳥取県と青谷町が誘致。
- ・青谷駅南工業団地に約2.2haの敷地にて操業。
- ・当時の従業員28人地元採用、資本金1000万円
- ・普通のメリヤス生地とは異なる混紡（織物状）生地など特殊なものを染色する合織用機械設備
- ・平成25年に破産。破産手続きにより競売にかけられたものの買い手がつかないまま、平成27年に破産手続き終了。破産管財人の管理も終了している。
- ・以降は会社が存在しないことから、事実上、土地建物の管理責任を負う所有者が不在。

《青谷駅南工業団地について》

青谷駅南周辺は工業誘致エリアであるが、エリア以南は国史跡「青谷上寺地遺跡」指定エリアおよび青谷かみじち史跡公園となっており、開発可能な地域が少ない状況。

【団地内の事業者】

- ・（株）トリーカ青谷工場 ・鳥取森田（株）（※破産） ・鳥取南海紡績（株） ・（有）鈴木塗工 ・ユーシー産業（株）
- 鳥取工場 ・中原建具店 ・清水鉄工所 ・山洋設備（工場） ・（有）松原工務店（※代表者死亡により休業中）
- ・あおやサイエンス（株）

《当該地周辺の状況》

- ・JR 青谷駅南に位置するが、駅の南出入口は無いため、周回して北口へのアクセスとなる。
- ・山陰道青谷ICへは約1kmと立地は良い。
- ・地盤が不良で沈下しやすい土壌。
- ・当該地南側には「青谷上寺地遺跡」が発見され、今後は南側の大部分が「青谷かみじち史跡公園」として整備される見通し（令和11年度完成）

《総合支所の考え》

- ・当該用地は民有地であり、跡地活用について市で大規模な予算化を進めることは、現状では難しい状況。
- ・一方で、住民の当該地への課題意識は大きく、地域振興会議等で取り壊しや再利用に関する意見が度々出されている。（景観保全、防犯、企業の再誘致、地域活性化等）

・地域課題を解決するため、民間活力による投資、企業進出があれば良いが、いくつかの課題があり、進出のハードルを高くしている。

【課題点など】

- 築 50 年以上経過し、老朽化した建物が残存するため、更地にするための解体・処分のコストが必要、又は現存建物をそのまま改修活用する手法の検討が必要。
- 廃業した事業者が染料をしていたため、土地取得した場合、土壤汚染法に基づく地盤・土壤の調査が必要、さらに調査結果によっては、地盤改良や産業廃棄物処理などが必要で、これらのコストが課題。※全てのエリアで調査が必要かは不明。
- 残存建物にアスベストが残っている可能性があり、除却が必要。
- 跡地内に大型構造物(煙突)があり、将来的に倒壊する懸念あり。
- 駅南工業団地内の他事業者から、跡地からの破片飛散・雑草浸食などに苦情が発生している。

・地域課題を解決するため、地域未来プランの目的に沿った跡地活用を進めたいが、工業用地としてのみでは限界があり、民間活用・行政活用を問わず様々な手法を検討し、その中で有効かつ費用対効果の高い活用方法を考えていきたい。

⇒鳥取大学との連携により、人口減少するまちの駅南工場跡地をランドデザインし、新しいにぎわいの拠点創出を目指す。

【地域課題として望むこと（地域未来プランなど）】

- ・中心エリアに住宅建築可能な土地がなく、民間による分譲も活発でないため、ファミリー層が町外（気高など）に転出して家を建てる動きが進んでおり、住宅用地整備の必要がある。
- ・町内の産業（農林漁業、商工業、和紙など）が徐々に縮小する中、新たな雇用の場が求められており、企業誘致を推進する必要がある。
- ・地域の新たな見どころとして「青谷かみじち史跡公園」が令和6年3月にオープンしたが、来場客の滞在時間が少なく、+αの立ち寄りスポットや賑わい拠点で地域周遊を図りたい。

<地域のヒアリング対象者>

氏名：長谷川和郎

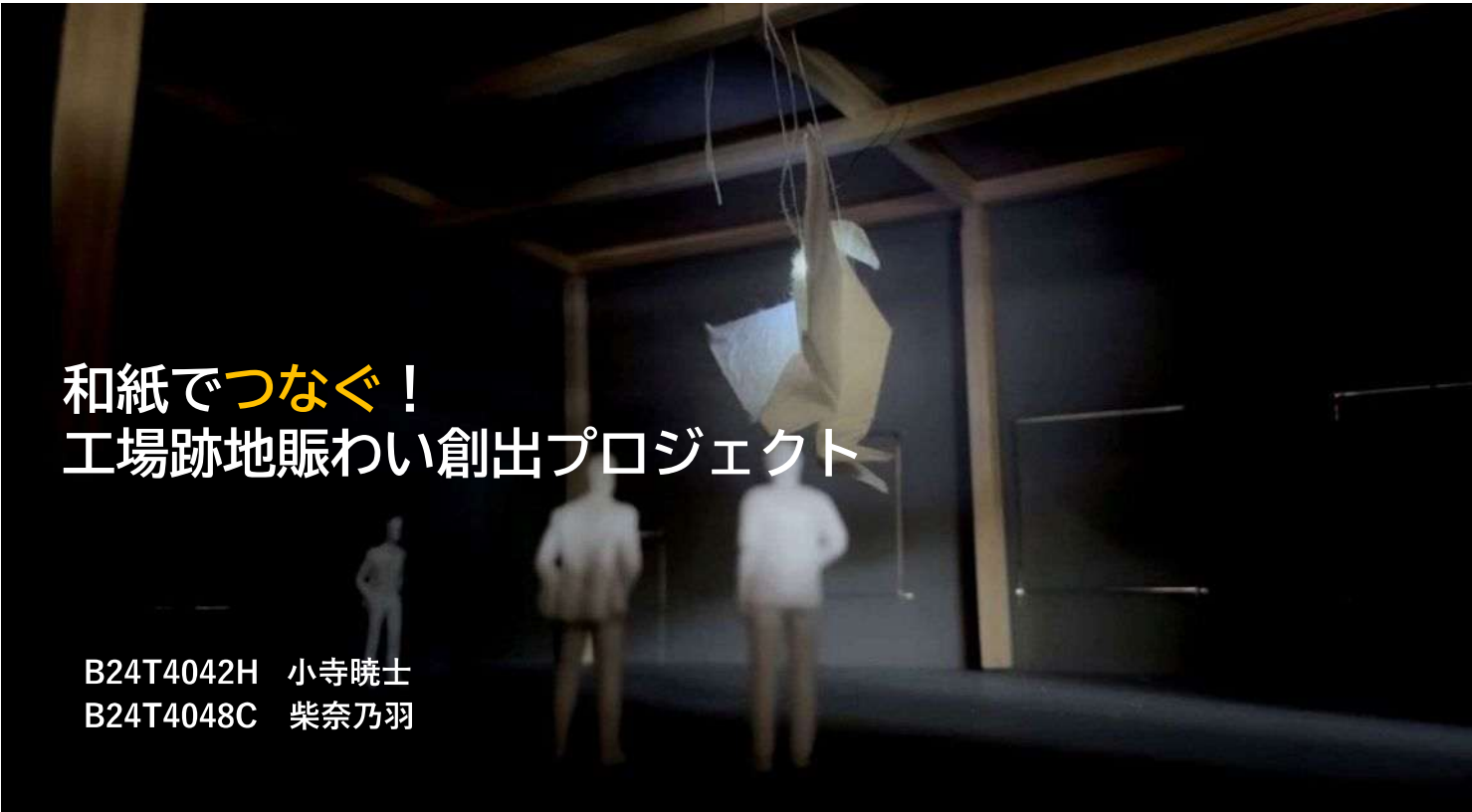
元青谷地域振興会議 会長。

青谷地域位置図（中心エリア）



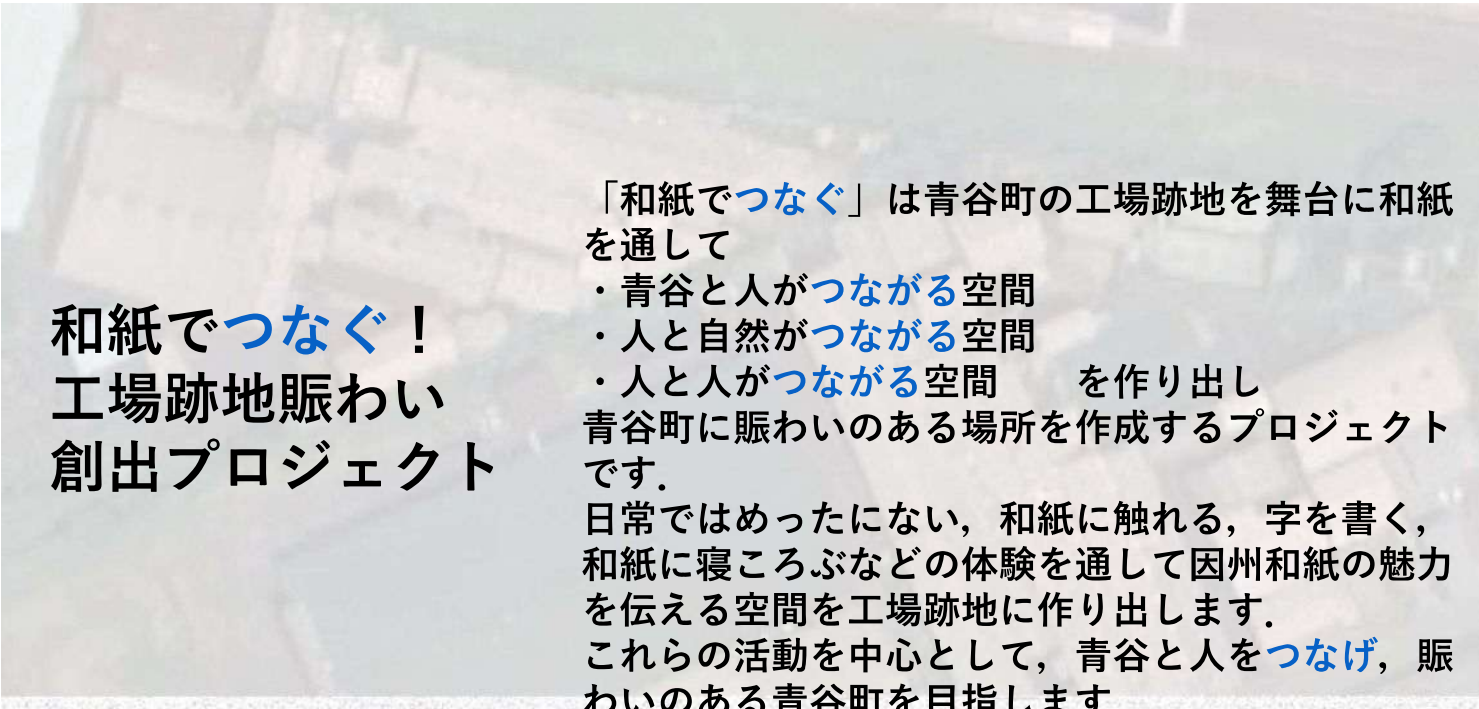


施設位置図（旧鳥取森田株式会社）



和紙でつなぐ！ 工場跡地賑わい創出プロジェクト

B24T4042H 小寺暁士
B24T4048C 柴奈乃羽



和紙でつなぐ！ 工場跡地賑わい 創出プロジェクト

「和紙でつなぐ」は青谷町の工場跡地を舞台に和紙を通して

- ・ 青谷と人がつながる空間
- ・ 人と自然がつながる空間
- ・ 人と人がつながる空間

を作り出し、青谷町に賑わいのある場所を作成するプロジェクトです。

日常ではめったにない、和紙に触れる、字を書く、和紙に寝ころぶなどの体験を通して因州和紙の魅力を伝える空間を工場跡地に作り出します。

これらの活動を中心として、青谷と人をつなげ、賑わいのある青谷町を目指します。

【テーマの背景】

青谷地域未来プラン

＝ 青谷町がめざす将来像 ＝
「いつまでも暮らしたい、住んでみたい、
歴史に彩られた活気とにぎわいに
あふれるまち 青谷町」



あおや かみじろう

鳥取市青谷町総合支所
令和7年4月

鳥取市公式ウェブサイト [aoya_plan.pdf](#)

青谷町の課題

- ・平成25年に破産した工場跡地の有効活用をプランニングしたい
- ・現在は老朽化し迷惑施設である
- ・雇用やにぎわい創出につながる地域振興施策を検討

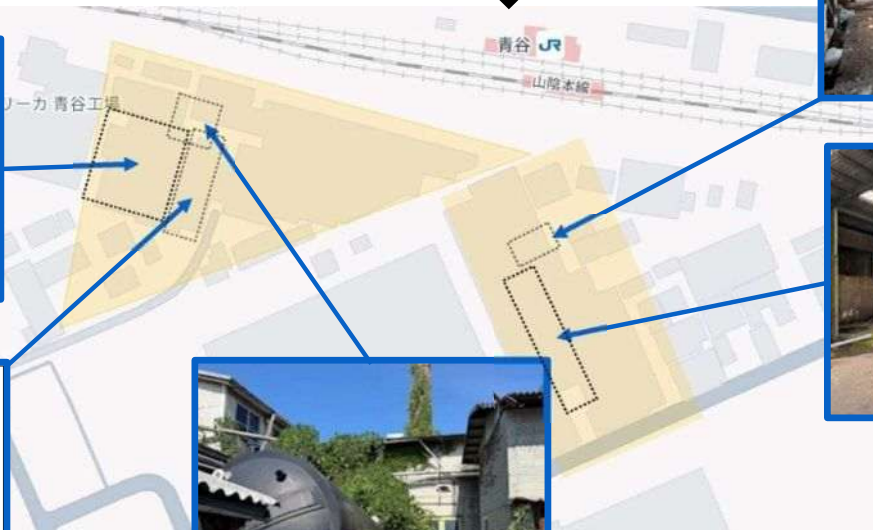
駅周辺のにぎわいの創出を目的に、青谷駅のすぐ隣に位置する染色工場の跡地の活用法を考えるとところから私たちはプロジェクトを始めました。

【染色工場跡地の調査】

※青谷駅から徒歩7分

JR青谷駅

鳥取駅から
電車で約30分



【課題】

青谷町の課題 1

青谷地域未来プラン
＜優先的に取り組む事項＞

駅周辺の賑わい創出
空き家・空き施設の有効活用



【課題】

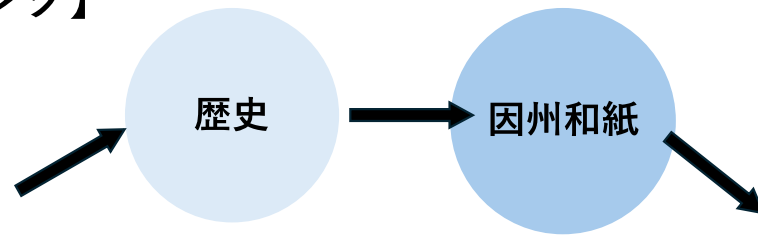
青谷町の課題2

青谷地域未来プラン
＜優先的に取り組む事項＞

因州和紙の活性化

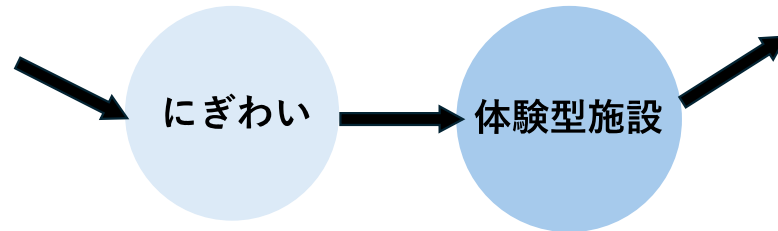


【コンセプトメイキング】



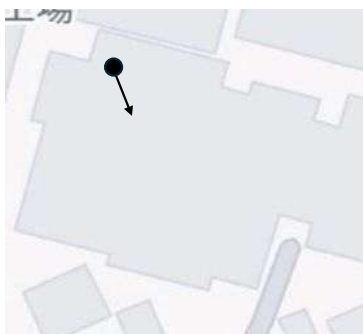
「いつでも暮らしたい、住んでみたい、**歴史**に彩られた活気と**にぎわい**にあふれるまち 青谷町」

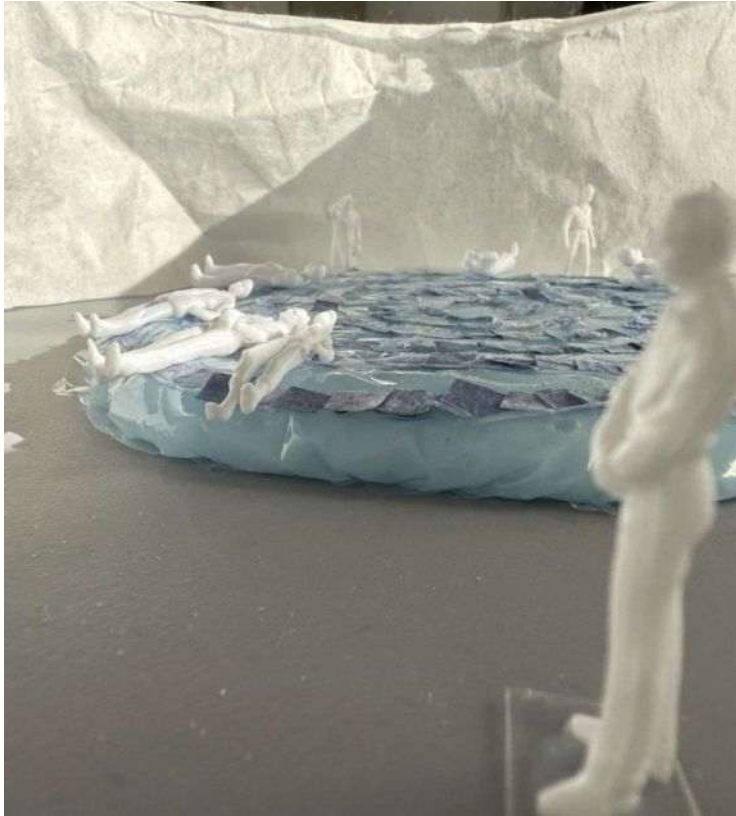
工場跡地を**和紙**が主役の体験型アート施設に！



コンセプト 〈和紙でつなぐ〉

【プロジェクト対象地の現況】





人と風を和紙でつなぐ

和紙は軽さと柔らかさ、繊維が長く絡み合った構造によって、わずかな空気の動きにも反応する。

和紙は、風を受けるとたわみ、わずかに形を変える不規則な動きを通して、見えない風の実感するための媒介となる。本来、目に見えず、形をもたない風を和紙の動きが風の強さや方向、空間の広がりを感じさせ、人が風の実感することにつながる。



空間イメージ

<https://si.blog.net/dj5GYggyWG>



<https://publicdomainlibrary.org/wp-content/uploads/2018/11/Poetic-Kinetics-Patrick-Shearn-Liquid-Sound-2015-Holographic-Alyse-mono-filaments-Persimbo-Square-Lux-Artist-200x1122.jpg>

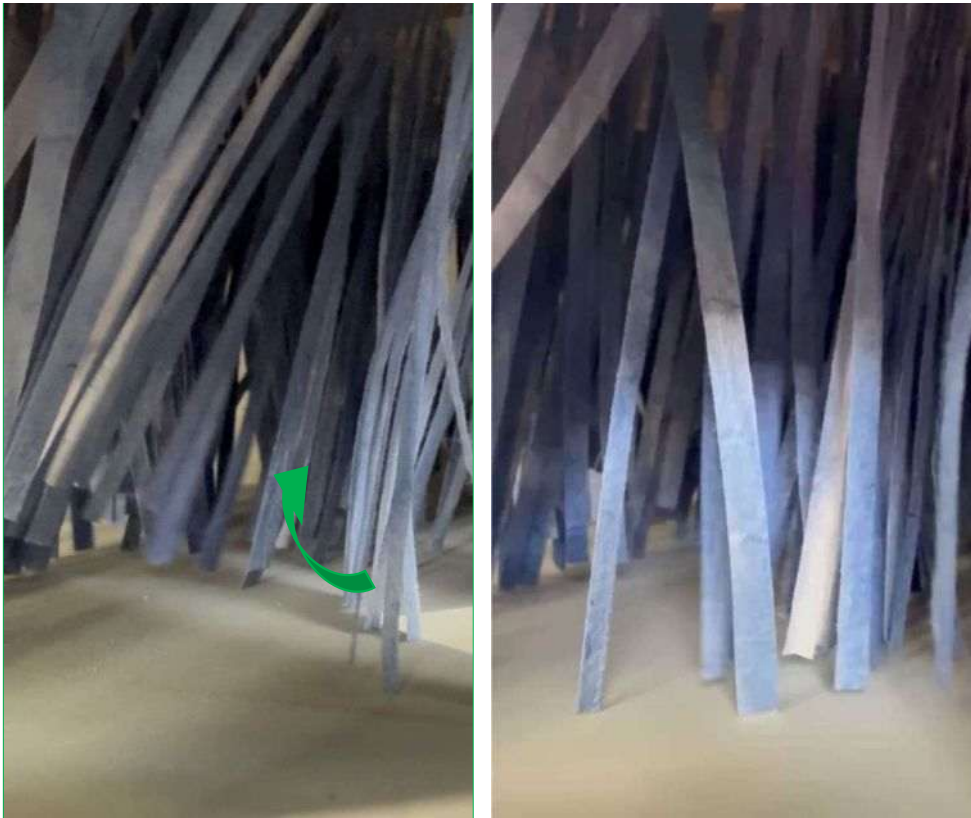


つながる因州和紙の魅力

和紙の揺れ

つながる

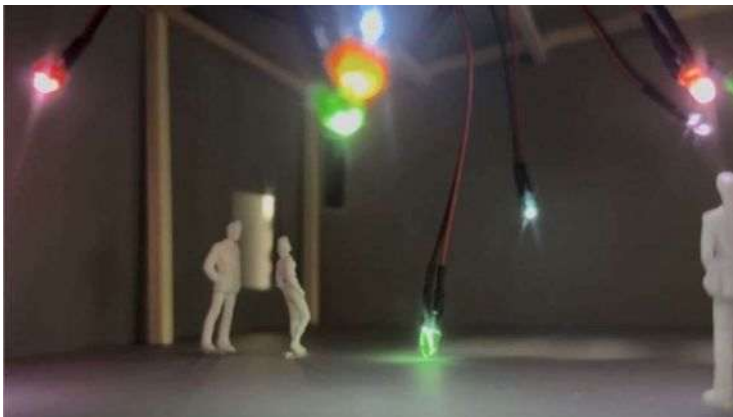
しなやかさ



人と光を和紙でつなぐ

和紙の繊維のムラや厚みの不均一さ、手漉きの痕跡によって光は均一にならず、やわらかく拡散することで光は目に強く届くのではなく、空間に広がりながら人のまわりを包み込む。

人はその光を「見る」と同時にあたたかさや落ち着きとして感じ取る。和紙は光を直接的な刺激から、身体で受け止める体験へと変え、人と光をつなぐ役割を果たす。



写真：Spencer Finch



写真：NYCB-DRIFT

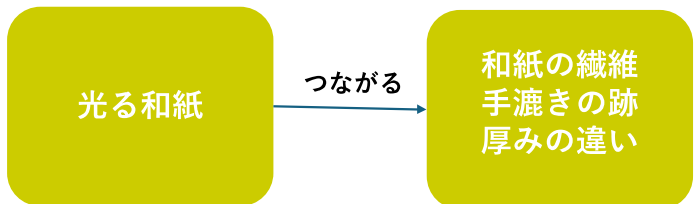


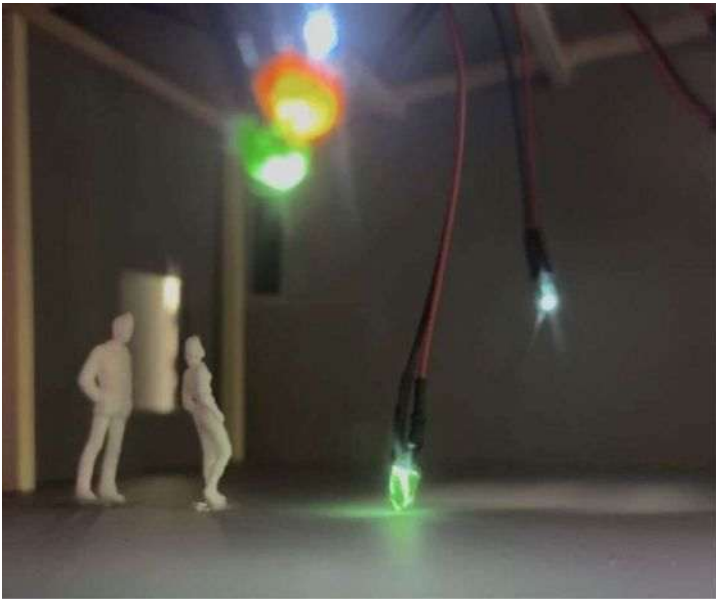
写真：<https://studiodrift.com/work/shyilight/>



写真：THE ROOF 鹿児島天文館

つながる因州和紙の魅力





人と闇を和紙でつなぐ

暗闇の中に浮かび上がる和紙の存在は、来場者の視覚や感覚を自然と引き込み、和紙そのものに意識を向けさせる。

闇の中に置かれた和紙は、わずかな光を受けて、柔らかく浮かび上がり、周囲の暗さを際立たせ、闇の存在を認識する。

和紙は単なる素材ではなく、人と闇をつなぐ。



つながる因州和紙の魅力

暗闇に光る和紙

つながる

素材
透過性
光を柔らかく
包み込む

